

自由民権資料館企画展 **入館無料**
 一写真でたずねる

「万葉の丘・多摩の横山」

現存する最古の和歌集『万葉集』などで歌われた「多摩の横山」や「玉の横野」とは、町田市民のふるさとの丘・多摩丘陵(北部丘陵)の古い名前です。「多摩の横山」は、都の歌人によく知られた場所だったのです。

本展は、大判フィルムカメラで撮影した多摩丘陵の風景写真に当地を詠んだ和歌などを添えて、私たちが日頃何気なく見ている谷戸田や雑木林などの町田の景観が、人々の時代ごとの営みによって生み出された歴史的・文化的景観であることを紹介します。

ギャラリートーク 毎週土曜日午後2時～(30分程度)

問い合わせ 自由民権資料館 ☎734・4508

会期 2月7日(土)～3月22日(日)

休館日 毎週月曜日

開館時間 午前9時～午後4時30分



◀畦の桜(図師町)



◀秋の多摩丘陵(相原町)



◀宵の谷戸田(上小山田町)



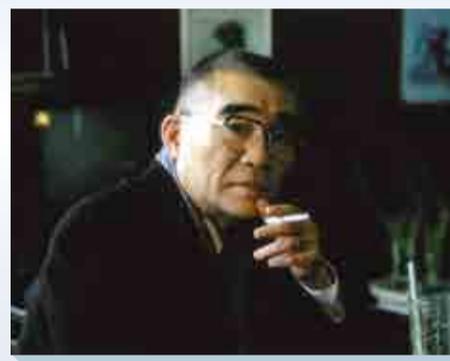
◀雪の夜明け(相原町)

町田市民文学館ことばらんど 2014 年度冬の展覧会

常盤 新平 遠いアメリカ 展

会期 1月17日(土)～3月22日(日) 開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日、2月12日(木)、3月12日(木) **観覧無料**



常盤 新平 1995年 ©関戸 勇

翻訳家にして直木賞作家、“アメリカ通”にして時代小説をこよなく愛するエッセイスト、あるいは翻訳エンターテインメント小説を次々と日本に送り出した名編集者——常盤新平(1931—2013)。様々な顔をもつ常盤の根底には、20代の頃から抱き続けたアメリカへの強い憧れがありました。

1987年に第96回直木賞を受賞した自伝的小説『遠いアメリカ』では、昭和30年代を背景に、不安や迷いを抱きながらアメリカに想い焦がれる日々を過ごす青年像を描きだし、高い評価を得ました。

常盤が晩年の約20年間を過ごしたゆかりの地・町田で開催する初の展覧会となる本展では、彼が憧れたアメリカ、彼をアメリカへと向かわせたものは何であったかを探り出し、愚直に想いを貫いた一人の作家の生涯と作品をひもときます。

問い合わせ 町田市民文学館ことばらんど ☎739・3420

会期中は、本展監修者の坪内祐三氏の講演会のほか、朗読会等も開催します。詳しくは、市立図書館や文学館などに置いてある展覧会チラシをご覧ください。

江戸時代、小野路は府中・大山をつなぐ道と八王子・神奈川をつなぐ道が交差する交通の要所で、宿場となっていました。八王子の人にとって、小野路は街道名にするに相応しい場所だったので。宿場として栄えていた小野

連載 町田市歴史の「コマ」 小野路橋と小野路街道踏切

写真にある「小野路橋」と「小野路街道踏切」は、JR八王子駅南側から京王線北野駅へ向かう野猿街道の旧道にあり、なぜ八王子に「？」と書いてありますが、街道名は行き先の地名を付けるのが一般的でした。「小野路街道」は小野路へ向かう道という意味で、小野路から見ると同じ道が「八王子道」になります。

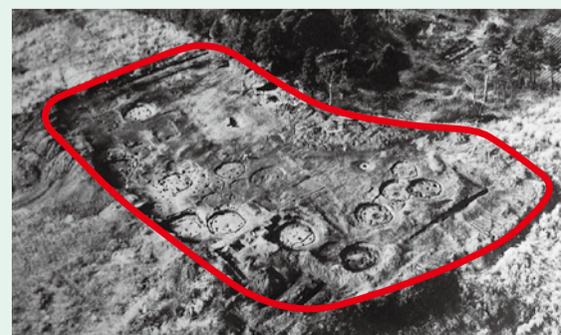


小野路橋▶



◀小野路街道踏切

鶴川遺跡はA～Xの24地点からなる遺跡で、このうちのJ地点は、標高89mの台地上にあった、当時としては関東最大級の縄文遺跡です。ここからは縄文時代中期(4000～5000年前)の住居跡が43軒まとまって発見され、多くの土器や石器、土偶や装身具、土鈴などが出土しています。この遺跡は、現在の鶴川第二中学校の南側約150m、鶴川2丁目の「鶴川いちよう通り」をまたぐ住宅街にありました。今では当時の面影はありませんが、1964年10月、東京オリンピックが開催され、国中が日本人選手の活躍に



▲当時の様子を上空から撮影した写真。軽飛行機を使って上空から遺跡の全体像を捉えたのは、市内では初めてのことでした。

釘付けになっていた頃、この遺跡は発掘されたのです。

連載 遺跡が語る土地の記憶 鶴川遺跡J地点

(東京オリンピック開催中に発掘された縄文集落跡)